

1 単元名 かわってきた人々のくらし ～のこしたい つたえたい 鳥取しゃんしゃん傘踊り～

2 授業構成

(1) 教材に対する反省と新しい提案

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年において

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり、年表にまとめたりして調べ、人々の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。
イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

に位置づけられている。

ここでは、地域の人々の生活について、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や願いについて考えることができるようになることをねらいとしている。さらに、古くから伝わる文化財や年中行事を取り上げ、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや保存・継承するための工夫や努力を考えることができるようになることが大切である。地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の学習では、行事の由来や行事が受け継がれている様子を調べるといった行事そのものに焦点をあてながら調べ学んでいく。受け継がれてきた文化財や年中行事とは、前代が遺した業績であり、当然のことであるが、「人」を抜きに考えることはできない。その意味で、古くから伝わる文化財や年中行事を取り上げる学習では、人物を通しながらその人物の生き様、その人物の業績と関連させながら学習することが望ましいと考えた。

本単元は、3年生にとって初めての歴史教材である。これまでの生活科や社会科の学習は、目の前の事象を捉えまとめ、現在進行の可視的な状態のものを教材としてきた。しかし、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事は、時間の変化を捉えてまとめ考えていく活動が主となる。そのため、初めて歴史教材と出合う児童にとって、時間的な経過を可視化することは難しい。そこで、学習を進めるに当たって、実際に見学して聞き取ったことをただまとめて終わるのではなく、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事は、今の自分にとって無縁なものではなく、今の生活と深く結びついていることに気づかせるように学習を展開していきたい。そこで、鳥取市の代表的な祭りで行われている鳥取しゃんしゃん傘踊りが、鳥取から遠く離れた北海道で踊られている事実に疑問を持ち、それをきっかけとして鳥取しゃんしゃん祭りに込められた先人の思いや苦心を歴代の鳥取市長の取り組みを通して学んでいく。この活動を通して、どのようにして鳥取しゃんしゃん祭が誕生したか、その経緯や人々の様子について調査していくことが大切である。さらに、過去から現在へ鳥取しゃんしゃん祭はどのように受け継がれてきたのか、鳥取しゃんしゃん祭が時代ごとにどのように変化してきたのか、それを受け継ぎ尽力された3人の市長の取り組みについて、当時の写真や資料・史料で調べ、比較・関係付け、類推などの過程を通して価値付けするといった学習活動を行っていく。

そうすることで、人々の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上ということについて、過去から現在、そして未来へのつながりを意識した単元を構成したいと考えている。

(2) 子どもの学びの実態と期待する学び方

児童は、3年生になり、地域を探検し、探検したコースに発見したものを順に書く活動を行った。印象的な建物をコースに沿って書き表すことで、「点」を「線」として表現していく。さらに、東西南北で歩いたコースを絵や地図記号を使って地図に表す活動の中で、学校の周りの湖山地区の特色や利用の様子を学んできた。このような活動の中で、「線」が「面」として広がり、湖山地域の特色を捉えてきた。さらに、「古い道具とそれを使っていた昔の生活について調べる学習」では、洗濯板を取り上げ、お年寄りに使い方を教わりながら洗濯板での洗濯体験を行った。「昔の道具は今の道具に比べると不便だけど、洗濯物がきれいになった。」

「おばあちゃんが教えてくれた。洗濯物の汚れを通して家族の一日の様子がわかり、お話ができるという意味がわかった。」「また、家でもやりたい。」など、子どもたちは、昔の人々の苦労を感じつつ、知恵を学び、そのよさに気づいていた。昔の道具はいつ、だれが、どのようにして使っていたか、どのような工夫をしていたか調べることで、その時代ごとの「空間の認識」について学んできた。そして、おじいちゃん・おばあちゃんのころ、お父さん・お母さんのころでは、道具はどのように変化してきたのか過去と現在とのつながりを年表にまとめる活動や体験で学んだ洗濯板が、なぜ今も使われているのか考える中で「時間的な広がり」を意識する学習を行ってきた。その中で、子どもたちは、「これは、昔のもの・・・。古いもの・・・。」という理解はできても、「何年ぐらい昔・・・、今から何年前・・・」と時間的なスケールになると、イメージしにくいという実態も把握することができた。

児童は、しゃんしゃん傘踊りを鳥取しゃんしゃん祭で実際に踊ったり、学校の行事等で見たりしている。また、児童は、鳥取市を代表する踊りということも知っている。北海道と鳥取のしゃんしゃん傘踊りを比較することで、どうして北海道で踊られているのか、いつ、誰が、どのような願いで、始められたのかと言った疑問から、実際に地域の方に聞いて調べたり、調べた内容を北海道深川市の人々の思いと比較・関係付けをしたりする活動や体験的な活動を行っていく。これらの活動を通して、当時の人々の生活の変化や人々の願いに気づかせたい。さらに、今年で49回になる鳥取しゃんしゃん傘踊りを受け継ぐために、どのような工夫や努力がなされていたのか、地域の人々の変化を資料や史料から読み取り、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。そうすることで、児童は段階的に空間の認識と同様に時間の認識を育てていきたいと考えた。

(3) 本時の学習に向けての教材研究

今年で第49回になる鳥取しゃんしゃん祭で踊られるしゃんしゃん傘踊りは、「因幡の傘踊り」について、現在鳥取県を代表的する踊りになっている。このしゃんしゃん傘踊りが現在のような鳥取県代表する踊りになるまでに、しゃんしゃん傘踊りの誕生に尽力された高田勇市長、市民の踊りへと願い普及活動に取り組んだ金田裕夫市長、全国各地へ広めていった西尾優市長の3人の市長の業績もあり、全国でも鳥取県を代表する踊りとして認知されている。さらに、誕生して49年間の中で、昭和57年北海道深川市の方が、しゃんしゃん祭りを深川市民が老若男女楽しめる地域の踊りにしようと考えて鳥取市に来島された。そして、鳥取市の職員の方の指導と互いの市の交流を経て、現在も深川市の祭りの中でしゃんしゃん傘踊りが踊られている。この单元では、鳥取市と実際に地域の方に聞いて調べたり、調べた内容を北海道の深川市の人々の思いと比較・関係付けをしたりする活動や体験的な活動を取り入れて、日本の代表的な祭りへ成長していった先人の働きや苦心を歴代の鳥取市長の取り組みを題材として取り上げる。そして、49年間、受け継がれてきた鳥取しゃんしゃん祭を保存・継承するための工夫や努力を考えていく。

本時では、児童に鳥取市を代表する鳥取しゃんしゃん傘踊りが、遠く北海道の地で踊られている事実から、

どうして北海道でも踊られているのか、いつ、誰が、どのような願いで、始められたのかといった疑問へつなげていきたい。そこで、自分たちの祭りの体験を想起させながら、深川市のしゃんしゃん傘踊りの様子の動画と歌詞に注目することで、鳥取しゃんしゃん傘踊りとの相違点を感じ取らせていく。さらに、深川市はどこにあるのか距離感を感じさせるために「Google Earth」を活用しながら鳥取市と深川市の距離間を感じさせていくことで、児童に両市の祭りに興味や疑問を持たせながら中心課題へつなげていきたい。そして、どうして北海道深川市でもしゃんしゃん傘踊りでも踊られている理由を、鳥取市と深川市の祭りのポスターやホームページ・使用している道具を手がかりとして、班で予想や疑問をワークシートに記入させていく。班の考えを全体に発表する活動では、班での気づきを全体共有しながら、課題を解決していくためには何を調べる必要があるのか今後の学習の見通しや目的を明確にしていきたい。

また、授業で活用した資料や板書や図書館や家庭で調べてきた資料などを、班ごとに画像や動画で記録していくように、単元を通して積極的に iPad を活用していく。機器を取り入れることで、毎時間の学習の歩みや資料を活用した意見を賞賛し、活用しやすい環境を整えていく。学習の深まる中で資料の見方や考え方が変化し、比較・関連する能力が高まり、点から線そして面とした単元が可能ではないかと考えた。

3 単元の目標

- 地域で行われている鳥取しゃんしゃん傘踊りの歴史を伝えるものに関心をもち、実際に探したり調べたりしようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 鳥取しゃんしゃん祭から、この地域の昔の人々がどのようなことを願ってきたかを考え、自分たちが選んだ表現方法で発表することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 鳥取しゃんしゃん祭について、聞き取り調査や資料集めなどをして調べ、年表や新聞などに整理してまとめることができる。(観察・資料活用の技能)
- 鳥取市の鳥取しゃんしゃん祭は、地域の人々のよりよいくらいを願う先人の思いが込められたものであり、今も大切に伝えられていることが分かる。(社会的事象についての知識・理解)

4 学習計画（全 10 時間）

第1次 「鳥取しゃんしゃん祭りについて、資料を見たり地域の方に聞いたりして調べよう。」

第1時 鳥取しゃんしゃん傘踊りと深川しゃんしゃん傘踊りについて、資料を通してわかったことや気づいたことを発表して学習課題をつくる。(本時)

第2時 インターネットや郷土史料を活用して、鳥取しゃんしゃん傘踊りの由来について考える。

第3・4時 3人の市長の業績に注目しながら、鳥取しゃんしゃん傘踊りが全国的に有名になり、今日のような祭になるまでの流れをまとめる。

第5時 3人の人物を通して、鳥取しゃんしゃん傘踊りを守っていくことの意義について話し合う。

第2次 「鳥取市と深川市の互いの祭りに込められた思いを考えよう。」

第1時 鳥取しゃんしゃん祭を守っておられる鳥取しゃんしゃん祭振興会事務局の方に話を聞く。

第2・3時 深川市と鳥取市の鳥取しゃんしゃん祭の共通点を調べ、祭りに思いが込められた思いを考える。

第3次 「これから鳥取しゃんしゃん祭りについて考える。」

第1・2時 これまで学習したことをまとめ、鳥取しゃんしゃん祭カルタを作り、これからに向けて鳥取しゃんしゃん祭・深川しゃんしゃん祭について考える。

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

鳥取市と深川市のしゃんしゃん傘踊りの違いについて、資料をもとにしながら考え学習課題を立てることができる。

(2) 学習の準備

鳥取しゃんしゃん祭と深川しゃんしゃん祭ポスター、深川市の「きなんせ節」CDと踊りの動画ワークシート、iPad

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援)

学習活動	教師の意図・支援
1. 鳥取しゃんしゃん祭に参加したりしゃんしゃん踊りを踊ったりした経験や知っていることについて発表する。 <ul style="list-style-type: none">・夏祭りで踊ったことがある。・駅前で踊っていたよ。・きなんせ節は聞いたことがある。・鳥取しゃんしゃん祭は49回も続いている。・このお祭は、鳥取市のお祭です。	○鳥取しゃんしゃん祭と自分たちのかかわりを想起し、鳥取市民にとって身近な祭りだとうことを確認する。 ◇鳥取しゃんしゃん祭のチラシやきなんせ節を見聞きしたり実際にしゃんしゃん祭の傘を触ったりすることで、自分と祭りとのかかわりについて想起させる。
2. 深川市の傘踊りを見て、気づいたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none">・鳥取しゃんしゃん傘踊りだ。・きなんせ節を踊っているよ。・傘踊りだけど、どこで踊っているだろう。・なんか歌詞が違う。	○北海道深川市の傘踊りの様子を見て、場所や踊りの様子、傘、歌詞に注目し、鳥取しゃんしゃん祭の相違点に気づかせたい。 ◇踊りの場所の違いや歌詞に注目させ、映像が鳥取しゃんしゃん傘踊りではないことに気づかせる。 ◇鳥取市と北海道深川市が遠く離れていることがわかりにくいため、「Google Earth」を使い視覚的に捉えやすくする。
3. 鳥取市と深川市の祭りのポスターや踊りの曲の歌詞・ホームページを手がかりとして、グループで予想をたてる。 <ul style="list-style-type: none">・鳥取市と深川市の祭りのポスターの見比べ・鳥取市と深川市のしゃんしゃん傘の見比べ・鳥取市と深川市のホームページの見比べ	○鳥取市と深川市の資料をもとにしながら、どうして踊られているのか仮説をたてさせる。 ◇目的意識を持って資料を活用させるために、予想を立ててから、その証拠となる資料を探すように声かけを行う。
4. 班で予想したことを発表して、これからどのようなことを調べていくか学習課題を作る。 <ul style="list-style-type: none">・どちらが始めたんだろう	○班での気づきを全体共有しながら、課題を解決していくためには何を調べる必要があるのか今後の学習の見通しをもたせる。

どうして、北海道深川市でしゃんしゃん傘踊りが踊られているのか？

- ・どうして、両方の祭りの踊りや傘が同じなんだろう。一緒につくったのかな？まねをしたのかな？
- ・鳥取しやんしやん祭りはいつから始まったの？

- ◇班の予想を書いたノートを iPad に撮り、発表するとともに今後の学習で活用しやすくする。
- ◇あとで学習課題としてまとめやすくするため、児童の予想と疑問を分けながら板書を行っていく。

鳥取しやんしやん祭のことをもっとくわしく調べてみよう。

5. 次時の学習の見通しをもつ。

- 学習課題をもとにしながら、まずは鳥取しやんしやん祭について調べて行くことを伝え、時事の学習の意欲へつなげていく。

(4) 参考文献

「鳥取しやんしやん祭物語」 久林 肇

近代の歴史遺産を活かした小学校社会科授業 寺本 潔 田山修三 編著

平成 20 年改訂 小学校教育課程講座 社会 北 俊夫 編著